

## 北海道胆振東部地震に伴う広域停電を踏まえた対応

- 電力広域的運営推進機関の検証委員会から示された対策などを踏まえ、社内検証委員会(社外委員3名含む)において策定した「アクションプラン」を実践していきます。
- 「アクションプラン」の進捗状況などを確認委員会において検証し、その結果を四半期ごとに北海道の皆さまへ公表していきます。

## 電力広域的運営推進機関の検証委員会の検証報告を踏まえた取り組み

再発防止策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 緊急時のUFRによる負荷遮断量の追加など、2018年度冬季における当面の再発防止策7項目について実施済み</li> <li>○ ブラックスタートに関する対策 等</li> </ul>	中長期対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ UFR整定の見直し</li> <li>○ 最大規模発電所発電機の運用に関する措置</li> <li>○ 北本連系設備のさらなる増強案への協力・検討 等</li> </ul>
-------	--	-------	---

## 情報発信・事故復旧対応など4項目に関する「アクションプラン」の概要

時停の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ブラックアウトを想定した全体訓練を実施</li> <li>○ 石狩低地東縁断層帯地震などに対応した事業継続計画を検討 等</li> </ul>	関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北海道・自治体への連絡体制強化</li> <li>○ 情報発信に関する対策本部の運営見直し</li> <li>○ 土砂崩れ箇所への立ち入りを進めていくため、北海道開発局との情報連携に関する体制を強化 等</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームページへのアクセス集中に対応</li> <li>○ 停電情報システムプログラムの改修</li> <li>○ 大規模停電時における情報発信の内容を整理</li> <li>○ 大規模停電時において道内滞在の外国人に向け英語・中国語などによる発信 等</li> </ul>	事故復旧対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電力各社からの応援車両の受入体制を整備</li> <li>○ 他電力への応援派遣の準備体制を整理</li> <li>○ 道路が寸断された場合に設備被害状況を早期に確認するため、ヘリコプターやドローンを活用</li> <li>○ 長時間復旧作業や広域応援に対する後方支援の拡充に向け、関係機関と防災協定を締結 等</li> </ul>

## 石狩湾新港発電所の新設

- 2019年2月に北海道初の液化天然ガス(LNG)コンバインドサイクル火力である石狩湾新港発電所1号機が営業運転を開始しました。発電効率が高く、環境特性に優れた電源であり、既設火力発電設備の経年化へ対応するとともに、燃料種の多様化や電源の分散化に寄与します。

発電方式	出力	営業運転開始
ガスタービン コンバインド サイクル発電 方式	1号機 56.94万kW	1号機 2019年 2月
	2号機 56.94万kW	2号機 2026年12月(予定)
	3号機 56.94万kW	3号機 2030年12月(予定)
	合計 170.82万kW	



<石狩湾新港発電所の特徴>

高い発電効率

優れた環境特性

優れた運用性

## 北本連系設備の増強

- 北海道と本州を結ぶ既設の北本連系設備(60万kW：電源開発(株)所有)に加え、2019年3月に新たなルートによる30万kWの連系設備「新北海道本州間連系設備(新北本)」の運転を開始しました。



自励式変換器（北斗変換所）



【新北本による効果】

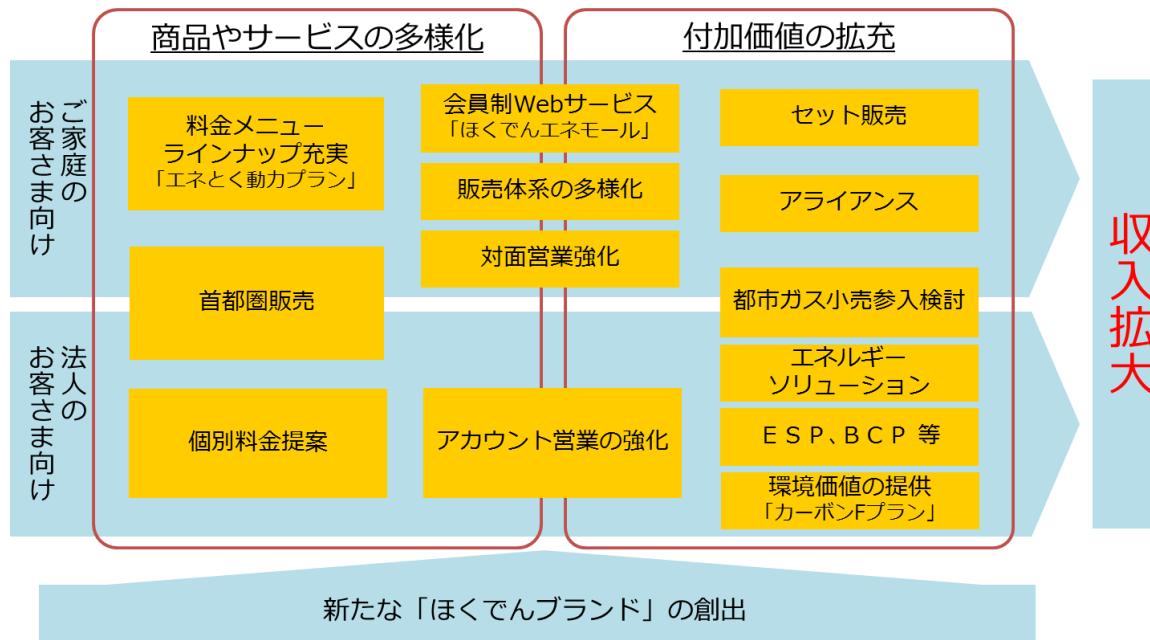
- ・発電所の緊急停止リスクへ対応できるなど安定供給確保への貢献
- ・北海道内の再生可能エネルギーの導入拡大や電力取引の活性化への貢献

直流送電設備としては「自励式変換器※」を国内で初めて採用し、電力系統を一層安定的に運用できます。

※交流系統の電源が無くても、交流と直流の電力変換が可能

## 販売活動の取り組み

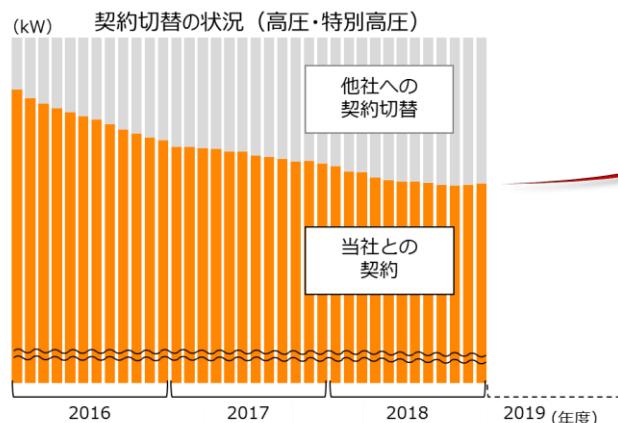
- 北海道内の電力小売については、競争力のある料金メニューを充実させ、対面営業を中心とした営業活動を強力に展開し、契約を切り替えられたお客さまにも改めて当社を選択いただけるよう取り組みます。加えて、さまざまな商品やサービス、付加価値を合わせて提供し、契約の獲得に努めていきます。
- 主力の道内電力小売事業のほかにも、事業領域の拡大を図り、総合エネルギー企業として新たな「ほくでんブランド」を創り上げていきます。



## 法人のお客さまへの販売状況

「他社への切替進展に歯止め」

アカウント対応強化やエネルギーソリューションによる関係強化などに努め、「攻め」の販売活動により、この勢いを継続する

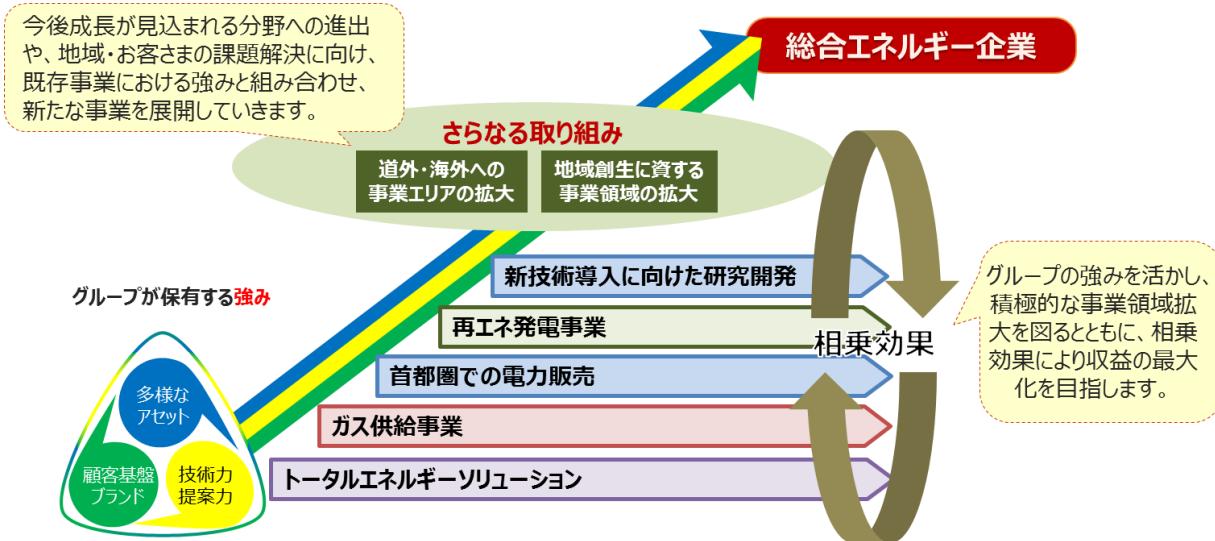


当社シェア回復を実現

## 事業領域の拡大

- 北海道での電気事業で培った技術力・提案力や様々な設備基盤などを活用し、積極的に事業領域の拡大に取り組み、総合エネルギー企業として成長を遂げていきます。

## 事業領域の拡大に向けたイメージ



## ガス供給事業

- エア・ウォーター株式会社および岩谷産業株式会社との業務提携のもと、当面の目標である販売量年間1万tの早期達成を目指し、液化天然ガス(LNG)販売活動を進めています。
- また、次のステージとして、ガス導管を通じた都市ガス販売について、早期参入に向けて検討を深めています。



石狩LNG基地のLNGタンクとLNG供給向けタンクローリー

## 首都圏での電力販売

- 2021年度に契約電力10万kWの獲得を目指し、首都圏での電力販売を積極的に展開していきます。
- 2020年に運転を開始する福島天然ガス発電所の供給力(当社持分：約10万kW)を活用し、さらなる収益拡大を図っていきます。



福島天然ガス発電所の建設状況 (2019年4月現在)